夫木和歌抄

巻廿一

1765
21

138

門 1 利 4
1765
21

文永和歌抄巻第廿一

雜部三

改頁

作哉前例ニ倣ヘ

洞　嵩　隈　鄙　柚　谷　路　嶺　根　恩　坂　橋　閑

洞

源兼氏卿花歌

土御門院御製

春ふかみ　深

うけはるさかりの花風ぬ

祖孫百首

風ふけいふ事のひいてこそ

百首歌合洞嵐宗拝同

たちの花　洞

遠孫二年百首歌

前中納言定家卿

雲の色　洞

文永四年毎日一首中　民部卿

かりのおとしをのこゑのみちのくに　光

文永六年毎日一そ中　同

ひさしくれはの松のうらあらてこゝろの洞ふかくとあらき　同

かきくもりすゝふの乃洞のあらたまてあまてさえすくんん

文永十年毎日一そ中　同

ゝそにこゝ洞をさゝへそうきるすゝふのあらしの松のあら　なみた

家集寺

入月のあさ日始こそうるおれたのゝ中のこけのあらして　拾遺抄

拾遺抄食のこゝろ　寂然法師

[illegible]　たつ

[illegible]　たこけのあらしや將さんん

後二條家潛位

奥山のいそのゝ洞にはもしもとあるれあるうこゝとやあるん　ほ

四条家歌合

あけぬまいつるとたゝやの御ゝ洞のまの苔のいろよ

家集法師

玉葉教

ゝれ夜かゝゝゝ山よいろてもゝゝ氏ゝの月をなかよ　つき

二字ケ

ほ寺ハ家宮法師いまゝ出家ゝ行ゝゝ

ケ

ゝ河松川の親ゝにまゝゝ發ゝて

やゝゝゝゝ行ゝいつれのゝゝて出家

何くにても仏法修行して往生をとげ
ばやとこいのりやうたるのちんまりかゝ
法名をとなん

松山

三行分トル

寛治二年百首松山　西行法師

ちりのこる雲のひろまをそこなる山人のかもとは
法名西行

家集海邦山

あさぢのうへにたちのぼる山人のあとは
法名西行

遠き八年百首の合　西行法師

そこ風うちはらふ松のそよぐ音
法名西行

家集

河あひのすさの山にすそ山ひとつ
西行法師

六位部ろ
法名西行

松人いとのよりてくるりそへつゝ
持経西行

家集

ようきろうゝ女よりて

清輔朝臣

すきうれしひろ風人あるうかまとゝ
外

かゝ家に行三ゝ合　皇太后宮大夫俊成

そ風ゝとしうすゝにかひくゝ
法名三十三年門裏百首　法名西行

おくりそてふるかのつらゝやきいかとつき

久安百首　　花園左大臣家小大君

みちもとえぬるのそれやまのそまにたにもたてをいとゝまつん

六帖部　　光俊朝臣

第六二

岩ねにのたにのそこ木の法かるよりわあるてすてしあやそれこ

浪二位家隆卿　　惜ケ

ゆきもしのひいりに雪や埋りてんえぬ桙よう面未うそお

家集　　鴨長明

うきもしのそまに山さくらぬしゆきぬしたにうもれにうの雪風

嵯峨院御時百首　　前参議雅経

あすかの河の水井よりゆきもしのはらのうまれいつゝさんは

千五百番歌合　　後京極摂政

松のそまにあしのの河とあくこしぬゝさいのこうり雪ゝ白ゆき

建長八年歌合　　光俊朝臣

河のかはのこゝろのいろかはりまきのてゝさゝりてそいろ万代まて

摂政正二位　　同年百首

竹原なゝの大山もりの志めゝ高よゝうゝ木のそこの花さうゝ

同年百首歌合　　九条門院中宰相

おもせもしもの枝ゝすひてやうゝ木の枝よやうゝ河つきこ

後鳥羽院御集入道関白

[illegible]

いさつくにすりぬる分そてかなしけれ神のいつきの杉木

あやぶりけるかなよ　　[illegible]

[illegible]

神のゆいつさの杉[illegible]共[illegible]なれいるよん

永延元年二条大納言陳子給命

次

家集

[illegible]井河の西よりかせむしられいはなみ岩浪を[illegible]

家集題盛[illegible]大井河の[illegible]

秋拾遺かは　大井河の西山風のさむけきにいとゆきかをる[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅撰三

家集[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集中　あつさのそ歌　後鳥羽院御下

ほとゝきすあつさの松のうら風　人の知らぬ（こゝろ）をぞ聞（きゝ）わたりける

承安元年八月会玄法寺殿の河合歌

みだれうちとかぬあつさのそ風よ　たつぬ（ゆく）人もとゞまず

家集中　いつさのそ歌　西行法師

松ちるたいつさうの海ちかくけさぞ　こゝろ

百首中松をよみ侍　法二位家隆

ちゝきぬ（そま）の松のうりして　新ちるれぬ（ふゆ）の月

建仁元年八月　後京極摂政

年へぬるひとのそ風のさひしきは　清

寂蓮二百年一百首　ゝの歌

なれ条門大臣

ちるかの白雪を掃ふとたゝ風のうら風　山ていよ

同　あつさのそ歌

あつさやひとぬ家のうちぬ（ゆえ）　法二位家隆

さゝ分る入る　松風家言　信実朝臣

ゆふくれ

ゆふくれ　杜

ゆふくれ　杜

ゆふくれ　杜

百貫文

拾人のひとにまこれん三日の山ちかけくるけきなりくよりて世

乾　三行分ナル

西治二年百貫　五百門四方

谷

まるあるこ岩ひとりの中ほ井にいれぬよりくんちかそれ

一百貫四方　拾名報院の裏

岩ちくあさめりてらやみちぬんかりくもみえぬとれいこの峯

海尼富次百貫今例　嘉歳四石

ちちのりの岩よひとくまいてい　たちいてい　みは

建長八年百貫文合　拾九条四方

岩のうへのうけうちりひいて拾ことハの岩九月紙ちうん

は　やまさき

三月　紙月よるりぬるみて　そら　そよあやまさ岩のこのいろは　みね　かな

三月　紙　判云　定儀名日云　定文　拾　寄　家治

遠る岩船遥遥凡境可遠遠遠若名云云

辛岩とりて文章の詩作ものなりべ　みな

月ものめめとくこてさくれんてのぶつるるや

芸云てて乳南来　岩は行りそれ仲友

をすきて吸方にそりて寄岩をぬやと

みの　紙　紙ぐさぐりてしとくこ

又拾百首中

皇太后宮大夫俊成卿

たちのぼる雲とぞ思ふあまのすむ
海人の住家の夕煙

法三位家隆卿

吹きぬる風ぞ秋のしるべ
あらし山花は散りぬ
高野の花は残りなく

入道前関白太政大臣

春の代の夢ぞ
春の日の花は散りぬ
高野の花は残りなく

家集

春の代の夢ぞ
春の日の花は散りぬ
高野の花は残りなく

第六番

法三位

人丸

日

千五百番歌合

家集

新拾春下

家集

法三位隆房

和歌所にて　為家卿

[illegible]

建保三年十月富士の御[illegible]中納言家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

衣笠内大臣

第二

あぢの原ちりけきあとをかきしのぶてらすひろるれ

遠保三位百首　法二位家隆

新後拾遺二

うばたまのぬばたまの星の世をよりいたるこのよをすぐる

冬十中

如円院小宰相

雪深ふりにたるこのをとをうちのわたりよんそまさる

四位二年百首　前大納言為兼

中イ

あさぼらけすみのぼるかたにたちぬるにらしをのうけそ

原

高倉二年百首　権僧正慈円

大和又常陸

仁安二年二月六の殿花宴通清

四位二年百首　如円院小宰相

なつきかな

花盛の寺の中

なつかしつとつくこの秋のうんこそ

春雨

みちのくのあさかの沼のみ花

延

春雨

修理大夫

今こゝにて八さてもあり[illegible]きこえ鳴[illegible]のまつ高[illegible]

はるかいはかくこの山里よたのそのとゝ

きゞすのなくをきゝてゝうとゝ

家集やまさのゝゝ

元輔

さくれなの[illegible]巌とるれなくる風たゝらいやたのゝ峯[illegible]

きゝ易山花とゝうとゝ式てゝうのゝ

寄花物

源重之

ゆくゝゝのゝゝのまつ櫻をゝうぬとてつゝ立ゝうぬゝゝうの

家集クゞれの山路

西行法師

タくれやたゝうの景をこえ必けハすゝきゝゝゝ

あつまやゝうゝ[illegible]て所毎のゝう同

[illegible]

[illegible]

根[illegible]

三行分トル

源行し俗ゝ時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かひなしと山のたちもとうれて君のおもてにかゝる白雲

遠長公年百百の合　信実朝臣

雲のうへかすみたちこめいかなれはひとの袖をたにぬらすらん

六の名所歌

新拾遺

ひとりのみうらのて明くく嵐ふかるこゝろをこそやらてこゝろかな

弘長百首毎日一首中　藤原為家朝臣

こゝろよいみゆきつもりしあしの山ちとふく風をそをしてをしつ

月照流水　紀伊

家上

雲きゆるうちのたちのの月をそひろはぬけるかきの雫

歌集　大納言経信卿

かつらき山のたちのにほひにはいかなる人かいとなんすむ

詠千首　三条

人の家ゆきてしらるとうく

光明院入道三品親王家百首歌

法華宝花

四季集　伊勢

いとのさゝゆ

思屋入道摂政

たちかつらき山のこゝろをたにはかりやいはせぬ

伊勢

たちかさいとのさゝゆをたゝ人のわすれぬ世をよ

伊勢温泉記

方三

三行

きぬ山のこゝろ国

ゆたにこしらるゆのたにをにその

そもにたてしてうふせりしひせしものうへこし
をうれいはせこのうち
鄙ふるさと　いとまのうち　大田新三郎
ひとふしとなれいてうれいうこうのうちうの　槽　足丁　生駒高　雲　なし
続後撰旅
家集月六中　慈眼院左福
れのよのひこのうちよりうたのうたのうたの

玉葉

[illegible]のあらしの音さえて五月のうれのよ寒ふる

雪

家集中　あさいの子　五月雨

吟歌　いさりてあさいのこけしのよ宿　[illegible]

よさ人ちとと

みちのくにけ　大和

万十三　みちのくにのよらまくそ[illegible]

あくさて雪はふるの白ひまるさとその雪

鄙歌

万十三　みち雪ふるさとけよ[illegible]

同

千五百年合　清輔朝臣

15

いさらにたりかりしさるひれいうよりけの月ふきれ

百首中　源仲業

家　月さゆるさえたりしこうもてしてもとてみけよ雪そつるる

四集　大和　[illegible]

万代　くの川吹うとの[illegible]

家集　源仲正

[illegible]のうけのれるこけのうへみちくのたるあつもあと

家集　[illegible]　[illegible]

ひえの山そのはるこけいかるれねとたのこいるれてそ

法華経百首　[illegible]

元は
さゝ波やいはもるつゝみのこけの山ゆ氷てこそたゝ
なれ中ゝ後の句　　春出後宮修石

玉秋下
あさ日さすいこまの峯のこけむすまてつ霧こしろあらし
大景のちくさのこけて　紀淑

西行法師
ふけてゆくいろのさるすすきのこけいんそこけ
さ庭園ゆふのこけの雪ふて

万代
雅経卿
ゆくゝの年のとの京つゝりをろくゝゆるのこけ
海雲　ゆくさのこけうの歌　かな

人丸

あすか川淵瀬をあさみ
霧　かは　たち
よろこ人　正家

かけろふのゆくさのこけよりそ
霞
あ須二年十月三日の会河内国[illegible]門宮

ひろのこけ
みか
ゆくさのこけ　ゆくさ井　名石
はるの院の宮

新さゝなみのこけと出て日のひかりはゆるあきの山のこ
寛治二年百首　落行　正三位知房

思
ゆ也ゆくさひかりはこけ
元
ゆくさのこけ
名
三行分十八

遠保三年百首

藤原仲実

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後京極摂政うたあはせのうち

後二条関白

春のよのあけぼのの月

春ひやうけのうちてかすみ
俤にかをるあさくさの
花かとてうちたをりかな

源俊定

ひさかたの月のうちにあきはきぬ
いづくあそびをつくしてか
月のうちにはやもとしてよもの
月百首に

為兼卿

春たてばはるのうちにかすみ
ゆくさきのあきの
はるのうちにかすみ

後京極摂政うたすてな

東

来林院

おくたの門いりそめしもんしんの
思

三行カトル

ゆくすゑ

人丸

一万十

いてそめしもみぢのもみぢ
遠き八年百首の合　光俊卿

春ふかみ
はるのうちにかすみ
はるのうちにかすみ
はるのうちにかす

新六二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水村長

永保元年大歳甲辰

天仁元年戊申

天永二年己酉

長中納言

藤原正家卿

拾大納言

入日

藤原

藤原

藤原

六四一
一六九六

新勅六二
ちはやふる神のいがきもこえぬべし
みわ月上
山人

寛治二年百首歌 陸奥
寄月隠梅家
こずえにしもなほ残りけり
沢名六
岡

六帖詠 うこぎ山 又大和
新勅六一
かつをのうらのしらなみとこそ
音
ゆるぎの
月
西行法師歌
新六二
かけをのみひきてきようたのしれわかさとりけれのもと
家集
相模
岩
ときのいはのすけいはのすがけ
生
中さんにてわやまさんにまるひ
よこ人まろび

ゆきつれなくやまぶ
残
ゆきの陽
月
家集
花
色
やうとし
ようへまろび
松
ゆうろ
を
既々花見
岡
鈴
ゆきしけ
聲
百首歌 ちはや山 或石
前中納言定嗣卿
ちを
ゆきかくるかけ
原
うれきのまろ
ゆきの
月
為忠

山田

[illegible]

[illegible]

秋の野に咲るなの花にすもしのまんこと物こと物かな

源仲正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三百六十首中

[illegible]

[illegible]

家長卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちうせんとうきょうし　はるかぜのまつ

文永三年入月二日親王家御千首松風

源三位頼政

西園寺入道前太政大臣

同

法のむしろをとるひのわたりにたちて女のけいうを

遠き山寺に百首会　ちうせんのとう　寄月法師

春へ　寄月

思ひ捨て井ひのかうの佐食　養イ

なわ

なわ

なわ

あさかるぬやしたのかのもとこそあるらしよ河海抄

家系図なし

五番 いとうとうの結風はやまのもとに朽ぬ

鄙ふる和歌 懐中ものの名

まうとの花のなかりと思ひんとうまとけいりて

ままきのあり

五番 うぬさんそるけれんかなりまうとのとうに重りあり

鄙ふる和歌 ものの名

立 ようさんとうとうず

五 とうとうとひりのうすまりなかのあたにとんいりて

飛帰

中務仁親王家四年就合 前右兵衛督書記

貞慶二年二月日 即日々内裏

白家とことこうるうこうるうこの花の秋乃久世

風

三月十日判 吉條殿 俊男 俗男 知ら

なり

荻作

ふるとうの紙

ふるとうやむしのの白あり

家系

六六 ふるをりよとるるのむしんのそこうてとうといてあり

尋

ちとはんとうあさあるんとうふるのおるうあるんのおるのそ

同 い

悲

指方俊隆卒

九百六
新拾遺
をれのあくしの花の咲てをとてもうくろくさてくつりをとて雪

永暦八年文月中納言素憲卿家合　同集歌

白浪を吹あげのうらゆゆしくもかなゆるかあくしの花のよるの雪　ら

永仁大業記　あさみのの花の澤　を　ら

秋なをあさみの花のをちをきくつむすひやすんらの和歌

家集　あくびのごと

おなじ納言俊光卿

ふる屋の秋乃神八坪とてやしろあくしのをやけるらん

玉藻　万三

秋月のさしのきゆゆしくとうゆんにきぬをきを

おなじ人

寛治二年一百首歌　西行法師

新拾遺　今宵

ひとりやすのくとくの花風よさいをふりあきひとりのん

をふ和　ふる和

万三

うちとをくくのすりゆ井八ちゆのをりよれうすんん

同　誰　ま　を

新院入道二条親王家卒首歌　山家

花をの隆房卿

郁芳門花安氣

家集　きりふのをり

立　岩　松　を　を　を　を　を

ちくしのくくりふのをりををを

なつ
なつ秋とゆきくの花のかをあらしかをの風をまつ

同

三位経房

みゆきせしふるさとのくさ草のくさ思あらんむかしの昔

文永元年七百首歌

見こし秋のあきの夕べ

同百首歌 秋

ゆくへもしらぬ秋の原

遠保四年百首和歌

ちるもうつるやみなそのもの色の和なむけ

郁芳門

同

ふるさとの草の若葉

ゆくへもしらぬ秋の跡

遠保三年百首

法三位花家

秋風のいとにつけてはふるさとの草木のうつろ色

かりかねの寒くるくるふるさとの同色

遠保三年百首

法三位花家

うつろひのなごりの渡りあるさまをうつろ

同

ふるさとの草のもとあさち吹き

法三位経房

ゆふくれ

秋の夕べ

春京廉光

同

ふるさとの草の秋ならしの色

貞応百首歌四首

光明峯寺入道摂政

三面原のもとせきふるさとの落草の花ちる

葛

思

[illegible]

[illegible]

寛治二年百首　後鳥羽院御製

まくのうちにかすみのこめるあけぼのの霜夜の月のかげぞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

御集　岡本勘之

衣笠内大臣

時しあれはすくもの松かのそつはらい下にもへてもしる人はなし

抜　三行分トル

六題

正三位知家卿

新六六わゝい

山人のかへるこさかのみちの〻におはやすけなる下わゝいかな

衣笠内大臣

新六道　新六

こえわふるこさかの道あの雪とけにかへるさかるしをのふさと人

国書刊行会

いとゝりおきあはりてうゑ草のこけこのはの霜のうへ

隆源法師

陽明院四百首

猶

村雨て雲とりのこはなくにとゝ人のとゝかはそてれる

同　たのもの

侍従

お文字の門

たゝとゝ人もなくたゝとゝ人のうけくさ

源重成

現

人のとゝ人のとゝのはてはくゝ

恨

百首四十　たのもの

藤原和尚

わゝ色いとゝのひのなゝ秋きてゝよいてゝやめとゝのくをまくさ

堀河院御時百首　　権大納言土御門公

ますらをのこさかのみちもあとたえて雪ふりにけり
衣かせ山

文永七年毎日一首中　民部卿為家

老のいちみかさの山のさかこえてふりにし松のあと
をみる哉かな

つくしへまかりける道にて橘のさかを
たちばなのさか

ちはれなりむかしの袖もかほるやと花立花はなのさかや
こえまし

國書刊行會

31

應和三年九月河原院歌合うりふ坂に霧降
山城又近江　　よみ人しらず

ほかよりも立やそふらん秋きりのうりふのさかにく
らくも有哉

なにたかくなりはしぬともうりふ坂霧のみたては見
えすも有哉

義久二年四季百首秋山　　従二位家隆卿
くゞのさゝさか久世山城

神代よりうりくれふりにし山城あのくせのさゝさかも
みちしにけり

國書刊行會

永久四年百首歌合

二条太皇太后宮肥後

郭公ありあけの月の雲ぬけて
いくこえしらぬ山のはの空

右大臣

ほととぎすなくやさつきのあけぬれば
ゆくへもしらぬ山のはの空

逢坂

逢坂の関のあなたにかくれいで
ぬるかとみるまの月の影かな

摂政太政大臣

ほととぎすなくこえいとはなかるなり
ゆくへもしらぬ山のはの空

陽明門院中納言

ほととぎすなくこえいとはなかるなり
ゆくへもしらぬ山のはの空

二条太皇太后宮肥後

郭公ありあけの月の雲ぬけて
いくこえしらぬ山のはの空

右大臣

ほととぎすなくやさつきのあけぬれば
ゆくへもしらぬ山のはの空

摂政太政大臣

郭公なくこえいとはなかるなり
ゆくへもしらぬ山のはの空

陽明門院中納言

郭公なくこえいとはなかるなり
ゆくへもしらぬ山のはの空

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨のよりうのこさうの[illegible]

[illegible]

[illegible]

隈

三行分ハ

好忠

三百六十首の中

秋の月をそのやまのこずえにいるよりも
たちさやかなる
ながめをとりてよいたるものやふかくまじ

光俊卿百

秋六二

ひさかたの月の桂のうへにてはたらひのうつ
ろふ

悲

四百二十三首

三条入道左大臣

同

隈

同

隈

百首の中つきのうた

性法院四条

長方

ちとせをかけてつきこうけてゆくすゑのかぎりをしらぬ
はるのうつろひ

つ

重之

我

ゆくとしをかぎりとおもふ
ひとりとしやいくとせ

家集

中

秋の中

家集

なし

ながめつるかぎりのうちにあるものは
月のかげとあきのはつかぜ

知カ

隆奥

あるかぎりのつれとなりぬ
ひとりのあきのつきのかげ

関

かは

つ

ちはるの天日記文治五年八月十五日の夜の
月のさやけさにかはらぬものはこの池のこゝろ

経

兼盛雅隆卿

[illegible]

建保二年[illegible]百首　[illegible]

あけぬるかたちかくもあるかなの雪に池の[illegible]

同

[illegible]

文治[illegible]年[illegible]百首　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千五百番合　[illegible]　後京極摂政

[illegible]

[illegible]

文治元年毎日一首　中務卿

[illegible]

[illegible]　隆信朝臣

[illegible]

洞院摂政家百首　後鳥羽院

[illegible]

文治六年百首　後京極摂政

[illegible]

[illegible]　後二條院讃岐

[illegible]

家集

[illegible]　和泉式部

39

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月九日菊の中　　ねぎ[illegible]

[illegible]

元亀二年毎日[illegible]

[illegible]

[illegible]

筑波

万二 ふかくしたにこもりてあるかひなくて雨けのなかるるを
なくうぐいす 草

万十二 同 たかくたにこもれぬるゆへあけちのなかるるを
人丸

万十一 むすびやちにひきあわしたるのりよりとんよりまりまりれ
笠金村

万九 同 みくちの音ある山ぶきを
人丸

筑紫

万十二 同 ぬばたまのあかるそのもとかりてそ
万又 ふるゆきけなくなりぬるをしらぬ
長 同

通 ひけりとりとあせのうそ
名傷写天王院久本傷写 いこのうそ 注二信家隆
元 ふんうのひうつろつのいそのうそ
百首 山路 ふもとの 岩
行くすゑのはそをすぎ たと まつこのとすくすひの
新勅二年百首 山椒 いこりけたそ 国々の家 郷
あけくれのもの山のあけくれたいのけ
山路雅経 中務のみそ 倉
山のあくみちもけてこのくれ 空
郡名和 ゆきけのみち 丹波国人

有馬藩

光俊卿長[illegible]百首 西三位知家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲荷社百首 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高市黒人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法性寺入道関白

ちはやふる神代もきかず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

中務卿のみこ 後撰

月すみのぼる雲の上人

めぐり逢ひて見しやそれとも
わかぬ間に雲がくれにし
夜の月かな

紫式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五十二
[illegible]

仁安三年家長卿合判之條々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つきこがらしの吹まさるこのあたりの
寛治二年十百首家橋 西之位 紀貫之
つくづくと月日をおくるかりの
清川をこえ山ぢをこえて
そひそめて雲のうしろにいつれのくるしさ
寛永二年九月歌会千合

有名歌方

あまのかはのうかべるしらくもの月のすみわたる
二字下 渡
はるかに判る若葉の天河より奏中橋呂者歌
橋渡しと為歌 橋とつくる橋と掛詞

仮ふ間河や池よりすをバ橋とつよ可学
枝なきよりとたとバ掛とつよ同ものやうか
ものどもかしなりつくる

永久四年百首照 俊頼朝臣
いなのうへのかけの山岩橋
治安百首 中 藤原公任
あしの山ぢをかけてくるかけのいとのかけてみちしよう
橋をこえ民のかよひのいとのかけてみちしよう
寛元
寛元歌合 藤原為家
第六番 藤原為家
第六二年百首 前中納言定家

[illegible]

西二位忠宣卿

[illegible]

中務卿宮

[illegible]

[illegible]

安嘉門院四条

[illegible]

法眼宗勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十七
六十二
つゝ

橋の院の付百首　藤原仲実朝臣

[illegible]

四季歌中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平政村名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]院の御百首　橋　[illegible]

[illegible]

六三

[illegible]

新勅撰四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の橋の人々にうたせられける
文応元年七月百首　藤原為家朝臣
[illegible]の橋いくよはきてはらふらむ
藤原院御百首　橋上花
[illegible]
藤原定家朝臣
[illegible]
法二位藤原隆房
[illegible]の橋
永久四年九月[illegible]
[illegible]
[illegible]
従二位藤原[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二字ト

はるかに行幸紀氏四位侯のそうしゃ
東月のに井のうのあたいつさの家らしか
あこ行とそ国へいて行ゆよかくなづけうえ
りていかうとべをめ行とふとのえのりと
りてはきてうとうとく

意行中橋 のやのく　京室門左右

かは国うのうのくもの橋のくもんはひられて色や思
百貫行うのくく　常陸　注下室同
月行はすくりうのうりひらるかりみくりの状の家風
遠長四年毎百文中　月侯成出仏

天
あ国の河のうのうの式うの文月あるようくしまうみうくうの
原年四年三月祐子内親王家行合かくぎのり

里
貴つうれうの井のき式いうりてロドそうんかくこ式稲
加四人
ひこかりのうの式あるうるひあ天ひるくなるかくくこの
織田拾百貫の国の山城　白太右文室人侯如
河のある祐とやうのむかかとうくくのくうをあるさ
郡司名　山城成　近江　典侍内自

百
雨のくるのうとのはきうしやうとうやうとうとうゆう

夢

隆祐卿

家集

渡

なしのしたにうるうるなまの浦よりすうるひうるさ

唯

ものつる

橋

永万二年六月平經盛卒合歌

かうぶ改正

ものうきうし

橋

六月廿日のゆうとうやかうるし

家集

紀伊

太宰大弐重尭

嶋

渡

文治六年七社百首

民部卿

家集

橋

紀伊

音

百首

舊

家集

橋

渡

橋

渡

橋

橋

渡

橋

渡

跡

文治六年六社百首

橋

渡

思

雷雨中

雷なれるものうるおうくらあり吹きぬけぬれいかをうる

ようへ哭

橋を

ありしれとハ岩ひるまくのたをなを町ひるくさハ住吉の里

前大納言隆房卿

人をたにひるまうもに朽ちくるるのの橋ゆくうん

うちのうるうるうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葛城

橋

同

六三

神楽歌

紅葉

錦

思

難

橋

年

二行

万七

三河

猶

みち女

ち

え

同

秋四首中

はし

中務のみこ

こころ

遠仁二年文十首 橋下花 為信卿

[illegible]

海道家歌百首　藤原為家

[illegible]

相模

音

[illegible]

[illegible]

逢事

[illegible]

永久四年百首　藤原為忠

二条太皇太后宮肥後

[illegible]

[illegible]

川

[illegible]

咲

[illegible]

今更

[illegible]

戀

[illegible]

[illegible]

屏風絵よかりける人のもとへつかはしける

[illegible]

渡

[illegible]

しか

[illegible]

朽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葛

[illegible]

続橋

[illegible]

同

[illegible]

上

[illegible]

待

[illegible]

通

[illegible]

親

[illegible]

更

三条殿入道左大臣

弥生ばかりに、ものうらうらとうちくもりたるに、人のもとへつかはす

ものうらうらとうちくもりたるに、人のもとへつかはす

さてさらぬ袖ばかりあさかれとうるめかのうらにはこの

春日社百首歌　安嘉門院四条

あるかなきかの川のうたかたしかりけるかなかな

川橋　摂津左大臣

山里にあるかなきかの川橋

まかれて　なれはてぬ身をやこれからすまんとすらむ

文治二年百首歌　摂政中納言兼実

二行

ほのさみつのうらのそらくもりきぬ

弥生の雪

あさこりのはしのひとはしわたされぬ

渡　殿　橋

文永二年白河殿七百首　光俊朝臣

うらんなしやあるんなりあるよりあるさのの

ひと　ひと

久安百首　あさぼらけ　同題和歌

大納言公定

日数つもりつもりぬれば　積　雪

ちりのこりたるあさの成

ちりのこりたるあさの

陸奥

能因法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月十六日 遠州[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後冷

なのりそもあるかたをなのりそもあるかたをなのりそもあるかたをなのりそもあるかたを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠仁二年[illegible]

[illegible]

[illegible]

出羽集　このもと　をは

うりけるこのもとの　中納言の人こ

山月を　やまのもと　をは　　能因法師

秋月のかすみの山やあけぬらんとおもふすがわらせるの海

百首哥

雲葉集

あさかすみ　そ　たちこめてみえぬ雨ふるせる城

拾大納言雅忠

月を中拾玉集

河雲をけさ　ふ　ふるせる城

家集

橋

あ　ふ　ふ　ふ

後鳥羽院御製

閑

赤田川辺

いすゝのゝのゝの

[illegible]

遠長八年百姓家の合　わるのせき　長谷中ハ其民々

久しきの家ゝまゝ〻ハ林ハ[illegible]ハあまの世ゝ[illegible]世ゝ[illegible]

遠保三年内大臣家の百姓　[illegible]　林　いそゝの世き

注二信濃国隆々

[illegible]

四条の寺　[illegible]

あまの[illegible]の世き　[illegible]

十郎百姓十他親[illegible]地　うゝき世の世き　[illegible]中納言家々

[illegible]

正長三年　毎日一ゝ[illegible]　民々内家

[illegible]

結[illegible]百姓

[illegible]

遠保三年内[illegible]百姓家の関遠[illegible]

注二信濃国隆々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仲[illegible]

[illegible]

[illegible]

新六五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛治二年百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永万二年六月廿日　家行合戦　高倉院右兵衛

[illegible]　こえ　[illegible]　かみ

[illegible]　[illegible]

六二　関　河口の関　河　関　夜

[illegible]

[illegible]　隆源法師

[illegible]　関

嘉応二年百首　[illegible]　西行法師

[illegible]　き　朽

[illegible]　御

[illegible]

[illegible]　た

[illegible]　せ　こ

嘉応二年百首　後九条内大臣

[illegible]　面

久安百首　[illegible]

[illegible]　ゆ

[illegible]　[illegible]　法勝寺入道前関白太政大臣

[illegible]　[illegible]　[illegible]

68

東路　[illegible]　袖中抄　武士　同　明　同　は

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

寛治二年百首関雪

[illegible]

[illegible]

六二

[illegible]

六三

[illegible]

百首中関路雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつまりの世きゝやうあるべし

寛元元年百首開　　藤原為家

ものすれどもとゝのゆ(せき)ゝの為よりの開てゝ

建保三年九月百首　　法印定家

塩竈のうらゝ霧をゝくめんまくさかりあつまりの関

寛喜二年十月法印百首合関路恋

逢坂　　藤原為氏

あつまりの世きゝやうあるべし

とやうゝよりの世きのいとゝ良選法師

のひゝ年いひくらゝとゝ

ものすれどもかの世きのいとゝ

ものゝ門とゝ

こゝあれ物ゝ開門とひ歳門とゝ

いつものゝ

かゝゝゝ

世りゝゝ

ゝ物ゝ

よろづ百姓方合

板の瀬戸のうすひよう志ら白

はや瀬のいそとの瀬の波

はや判官志賀云たの瀬のいそとのそるの波

すぐさに波ゝ〳〵きたりをきいづるきりてのこまとりよりそれいしかどもうとやそれいしかどもうとやそれいしかどもうとや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

播磨国[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

源[illegible]

[illegible]

白鳥関

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霧

浦

聲

戸

せき

かは

ほ

せき

風

ま

せき

関

なし

二字ト

はイ

ト

主イ

祭

ト

題せる

大和歌の抄巻第二十一

終